（別紙4）　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0970500435		
法人名	社会福祉法人　津田福祉会		
事業所名	グループホーム　和田の家		
所在地	栃木県鹿沼市白桑田254－12		
自己評価作成日	平成22年7月23日	評価結果市町村受理日	平成22年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成22年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の子供達が時々訪ねて来てくれることで、一緒に話しをしたり、時には子供達を叱ったりと、喜怒哀楽を
持ちながら過ごすことで入居者の良い刺激になっている。
「排泄はトイレで」排泄のパターンを掴むことで、1名を除き日中はオムツを使用せずに過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは市東部の新興住宅地と田園地帯が隣接する静かで環境の良い場所に位置し、同法人の特別養護老人ホームや保育園等が併設されており、災害時等の協力体制も構築されている。ホームには近隣の小学生が放課後等に来所し、入居者との交流が図られており、入居者の良い刺激になっている他、子ども達の父兄とも交流が広がる等、地域との交流に積極的に取り組んでいる。排泄の自立支援については、入居者の排泄パターンの把握に取り組み、おむつを使用しない支援に活かしている。ホームには落ち着いた雰囲気が漂い、管理者及び職員は常に入居者と家族の思いの把握に努めながら、尊厳を持ったケアに取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が今できることや利用者の希望を出来るだけ理解し、家庭的な環境のもとで安心した、穏やかな生活が送れるよう支援している。	「その人らしい生活づくり」を理念に掲げ、入居者の思いや意向を大切しながら、その人ができることを支える事により理念の実践に取り組んでいる。また、日常の会話や行動から把握したことについては、申し伝えノートに記載し、毎月の和田の家会議等で情報の共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人の保育園や近隣の小学校の行事に参加したり、また、逆に和田の家に訪問に来て頂き交流の機会を設けている。自治会の行事にも参加させて頂き、地域とのつながりを大切にしている。	隣接する同法人の保育園児との交流や近隣にある小学校との交流も図られており、放課後には児童が来訪し入居者との交流が行われている。自治会にも加入しており、地域の行事にも参加する等、地域との交流にも積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の子供たちが気軽に遊びに来れる環境を作っているため、地域の人々に認知症の人の理解を得やすくすることに繋がっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員からの提案を参考とし家族を交えた外出や行事の取り組みを実施し、家族、利用者、職員間の交流の機会となりそのことがサービス向上に繋がっている。	運営推進会議は入居者家族、地域の代表者、市担当職員等の参加により2ヶ月に1度開催している。会議では、ホームの活動状況の報告や各委員からは助言や提案を得ておりサービスの向上に役立てている。	今後、運営推進会議を更に充実したものにしていくためにも、議題等にあわせて民生委員、消防署員や消防団員、駐在署等に参加を呼びかけ、地域とのつながりや防災等の安全面の向上に取り組んでいくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	和田の家の行事参加に声かけしたり、普段から分からないこと等は相談している。	運営推進会議の参加時にホームの現状や課題を把握してもらっている他、常に電話等で連絡を取り合い、相談しやすい関係が構築されている。また、ホームでの行事にも参加を呼びかける等、関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束廃止委員会を設置し、必要に応じ検討している。また、身体拘束廃止に関する指針を策定、言葉や態度による拘束予防のためNG用語集を作成し、実施している。気配り、声かえにより利用者の自由な生活を支え、日中は鍵をかけなくても済むような配慮をしている。	法人として身体拘束廃止委員会を設置し、必要に応じた検討、指針の策定、NG用語集の作成等に取り組んでいる。ホームとしても本人の意志を尊重し、極力見守りやさりげない声かけによる支援に努めており、入居者が穏やかに生活している様子が見られた。日中は玄関に鍵を掛けない生活をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止の研修会を実施したり、事例を用いその詳細について理解することで、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会、外部研修に参加できない場合は参加した職員の報告書に目を通す等、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明する際には分かりやすい言葉を用いたり例を挙げて説明する等の工夫をしてる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、意見や苦情を受け付けるとともに、家族面会時には積極的に言葉かけを行い話しやすい環境作りに努めている。	家族等には、重要事項説明書の中で苦情等についての取扱を説明している他、意見箱の設置や来所時に意見や要望を表わし易い環境づくりに努めている。また、家族アンケートを年1回実施している。出された苦情については和田の家会議で検討し、改善に向けた取組みに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度の和田の家会議にて機会を設けている。	職員が日々の支援の中で感じた事や気づいた点は随時、管理者や介護士長に伝える機会があり、毎月開催している和田の家会議においても意見や提案することができ、協議が必要なものについては職員間で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2度自己評価（スキルチャート）を実施し、年度の目標や反省点等、自己を振り返る機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会への参加や入社後の研修を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会主催の研修会やその他の研修会を通じて交流の機会を設けている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が本人との面接を行い、話を良く聴き、本人の思いを理解し、受け止められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの際に現在の状況や家族の心情を出来る限り傾聴し、思いが受け止められるよう努力している。また、状況の変化があった時も随時相談を受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の本人、家族、周りの環境等を踏まえ、本人、家族が何を求めているかを見極めアドバイス出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中の家事（食事の準備、片付け、洗濯物たたみ、裁縫等）全般において本人の能力が発揮できる場面を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と合同で外出したり行事を開催したりして家族とともに支えていく関係を築いている。また、面会の際には和田の家での生活状況を報告し、協力と理解を得ながら支援していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前良く買い物に出かけていたお店に一緒に出かけたり、家族にも協力してもらいながら支援している。	本人が以前に利用していたお店や墓参り等に職員と共に出掛けている。また、入居者の友達が来所してくれる等、これまでの場所や人との関係が途切れないよう家族からの協力も得ながら支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活から利用者同士の関係を理解し、必要に応じ職員がパイプ役となり利用者同士が円滑な関係が保てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までに自宅へ戻るための利用終了はないが、施設に入所し利用終了となるケースの場合は、その後も利用者や家族に会う機会があり、その都度様子を伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常の支援の中で利用者との会話や行動観察を通して利用者の思いや意向を汲み取っている。	日常の支援の中から入居者との会話や行動観察を通して思いや意向をくみ取り、本人本位の支援をしている。また、家族からこれまでの生活歴の聞き取り等も活かしながら、私の思いシートを作成し、職員全員で思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に家族より生活暦の聞き取りをしている。また、面会の際に家族との話の中で昔の話を伺ったり、行事の時に昔の写真を持ってきて頂き、その時の生活ぶりを伺うことで利用者を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で本人が出来る事、出来ない事を見極めるよう努めるとともに、したい事、したくない事を本人に直接聞いたり、気持ちを察しながら現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を伺ったり、認定期間に合わせた定期の見直し、日々の状態観察で変化が見られた時は随時、職員間で話し合いを持ち、計画の見直しを行っている。	入居当初はアセスメントの確認を行い、本人や家族の意向を反映させた1ヶ月間の介護計画を作成し、ホームでの生活状況等を確認しながら状態に合わせた介護計画に変更している。また、毎月開催する会議等において見直しの検討や状態に変化が見られた場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や日常の中でヒヤリとしたこと等を記録し、利用者を理解する材料とし、今後の支援に繋げていけるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況と家族の要望に応じて、グループホームから同法人の施設への転居を支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小、中学校の訪問を受け、子供達との交流をもったり、地域の行事に参加したりして楽しみのある生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には家族がかかりつけ医の受診をしているが、状況により職員が一緒に付き添うこともある。また、希望により隣接するクリニックへの受診支援を行っている。	本人や家族の希望に沿ったかかりつけ医での受診を支援をしている。協力医以外のかかりつけ医への通院は家族に付添いをお願いしているが、独居や家族の事情により対応が困難な場合には職員が付添う等、弾力的に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さつき荘の看護職員が和田の家に来て状態の把握に努めている。また、職員が利用者の状態に変化があった時に相談し、対応して頂くこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院の際は、定期的に面会に行き看護師、医師から状態の説明を聞いたり今後についての相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	バイタルサインや食事摂取量等に変化が現れた場合、協力病院の医師及び家族と話し合いを行い、本人や家族の意志を尊重した上でできる限りグループホームでの生活を続けることが出来るよう支援している。	本人や家族の希望を尊重し、出来る限りホームでの生活が継続できるよう支援しているが、医療行為が増えてきた段階でホームの生活が継続可能かどうかを判断している。重度化や終末期への取組みについての研修会も開催され、職員間で方針の共有が図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設である特養の看護職員の指導を受けたり、研修会に参加したり緊急時対応マニュアルにより緊急時に備えている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で災害時の訓練を定期的に実施している。	併設されている特養と合同で消防訓練を定期的に実施している他、ホーム単独でも避難訓練等を実施している。また、併設施設との災害時のバックアップ体制の構築やスプリンクラー、自動通報システムも整備され入居者や家族の安心に繋がっている。	消防設備が整い職員の不安は軽減されてきているが、職員が少なくなる夜間時の避難誘導には不安も多い事から、今後、災害時における近隣住民からの協力体制づくりに向けた取組みに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と同じ目線で言葉かけを行い、利用者の人格を尊重している。NG用語集により言葉かけや対応に注意している。	ホームでは入居者の尊厳やプライバシーの配慮に努めており、日々の支援の中で使ってはいけない禁止用語集を作成し実践している他、入居者の居室に入る際にも許可をもらう等、入居者の人格を尊重する支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見を尊重し、本人に選択して頂く場面作りを日常的に設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	和田の家での生活にスケジュールは設けず利用者一人一人のペースを大切にし、自分のペースで暮らしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に沿い、白髪染めを行ったり、化粧、マニキュア等おしゃれが出来るよう支援している。また、月に何度か理美容師が来荘し、散髪を行っている他に職員が希望に沿って散髪も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の嗜好を把握し代替食を提供する等柔軟に対応している。また、職員と利用者が出来る範囲で一緒に調理したり盛り付け、片付けをして楽しみながら食事が出来るよう支援している。	入居者ができる範囲で職員と共に食事の準備や後片付け等を行っている。職員も入居者と共に会話を楽しみながら同じ物を食べており、楽しく食事が出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	さつき荘で作成した献立を実施することで栄養のバランスが取れた食事を提供している。また、日々の食事、水分量の把握をしている。毎月体重測定を行い、体重の増減を見ながら、補食を提供する等の配慮をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る利用者には声かけや見守りで歯磨き、うがい等をして頂き、出来ていない部分を職員が手伝っている。夜間は義歯を預かり口腔内の清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、また排泄の訴えやそれに見合う行動が見られた時はトイレ誘導を行い、出来るだけおむつを使用せず生活出来るよう支援している。状態に合わせおむつやパットを使い分けている。	排泄チェック表を作成し、一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。また、ホームでは排泄の自立支援にも力を入れており、排泄パターンや時間等を見計らい、トイレへの誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。現在、オムツ使用者は無い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者には水分量を増やしたり出来る範囲で身体を動かす働きかけをしている。また、便の状態を確認し、下剤の調節をする等気持ちよく排泄できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	少なくても週3回以上入浴して頂いている。また、利用者の体調や好みの順番を取り入れている。	入浴は1日おきに実施しているが、本人が希望すれば毎日の入浴も可能となっている。また、入居者の体調や好みに合わせて順番を変えたり、介助者を2名にする等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	記録により利用者の睡眠パターンを概ね把握し、夜間眠れない利用者には余暇活動を行ったり、午睡の時間を設けたり、医師に相談したりしながら生活のリズムを作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が行っている。家族から受診後に話しを聞いたり、病院からの処方箋に目を通し、薬の目的や副作用、用量、用法について確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人のやりたいことや得意なことを把握し、役割を持って生活出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って近所へ散歩に出かけたり、職員が利用者を自宅に招く等の支援をしている。	近所への散歩や地域の行事等に出かけている。入居者の希望による墓参りへの同行や職員が入居者を自宅に招くなどの外出支援を行っている。また、定期的に外食や近隣商業施設や観光施設への外出、温泉地への宿泊による外出も行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常の金銭管理は事務所で一括して行っているが、外出の際にはお小遣いを持ち、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月利用者自筆の手紙を家族に送付している。また、利用者の希望により電話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地場産業の木材をふんだんに使用した共有空間は家庭的な雰囲気をゆうしている。また、天窓より自然光や自然の風が入るよう配慮している。	共用空間は木材が多用されており、暖かみのある造りとなっている。各スペースも十分にとられ、天窓からは自然光が入り、開放感溢れる構造になっている。食堂に続く居間には小上がりの畳みスペースがある他、要所にはソファー等が配置され、思い思いの場所で寛ぐ入居者の姿が見られた。入居者の創作物や行事の写真などもさりげなく掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには要所にソファーを設置し、畳スペースにはこたつを設け、自由に利用して頂いている。ホールのテーブルは組み合わせが自由に変えられる物を使用し、適宜席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品を自由に持ち込むことによって利用者が居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	各居室には入居者各々が使い慣れた家具や小物類の持込み、また、お気に入りの品々が飾られている等、それぞれに個性的な居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースや居室のトイレ等に手すれが設置され、流し台は利用者が使いやすい高さに設置され、安全に生活出来るようになっている。居室の入り口には表札があり、ドアは色つきのガラスを使用し、混乱を防ぐ工夫をしている。		